

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

平田幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・毎年、評価・改善をしている教育課程を指標とし、幼児が『おもしろい』と感じ夢中になって遊ぶ保育を構想していった。3年間の育ちの過程を大切に、全教職員が一体となって取り組んでいることを感じる。	4	4	・今後も『教育課程』を指標として学級経営を行い、全教職員がわかりやすいキャッチコピーをもちいて、望ましい保育をしていく。 ※教育課程を表にしてわかりやすく貼っておられることはすばらしい。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達や課題を捉えて保育を行っているか。	・全園児を全教職員が育てるスタンスで、子どもを多面的に捉える努力をしている。一人一人の良さと課題を明確に捉え、具体的な援助を語り合いながら関わるようにしている。保護者アンケートからも評価をいただいている。	4	4	・少人数になったことで一人一人の育ちを捉えやすくなったが、課題ばかりに目を向けず、その子の良さを引き出すことで自己肯定感を高めるよう努めたい。 ※年々、保護者の評価が良くなっている。園の継続した取り組みの成果だと思う。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別な支援を必要とする幼児の困り感ややりたいことなどを明確にし、具体的な援助について教師同士共有したり、学級経営をしたりした。必要に応じて支援ファイルや個別指導計画を作成し、専門機関と連携したり、就学につなげたりしている。	4	4	・特別な支援が必要な幼児だけでなく、どの子どもが様々な育ちをしていることを理解し、課題と良さについて共通理解して、どの職員もが一人一人について望ましい関わりができるようにする。 ・専門機関との連携や研修会で得た情報を共有する。 ※特別支援拠点園の実現に向けて運営協議会も力を注ぎたい。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・全教職員が、人権・同和教育の研修を受けたり、研修報告を元に話し合ったりして、自らの人権感覚を磨く努力をしている。 ・幼児を肯定的に捉え、「あなたは大切な存在」であることを伝えたり、友達との関わりの中で相手の気持ちに気づくような関わりをしたりしている。	4	4	・教師は幼児にとって、大きく身近な環境であることを自覚し、自らの人間性や人権感覚を磨く努力をする。 ・来年度から2年間、出雲市の同和教育指定事業に取り組む。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事を単発的な活動と捉えず、幼児の興味や活動、保育の過程でどんな経験をしているのか、この行事でどんな育ちを期待しているのかを、十分に話し合っ進めた。特に運動会や生活発表会では活動とのつながりを大切に、子ども達が意欲や自信をもったり、達成感を得たりできるよう工夫している。保護者アンケートからも評価をいただいている。	4	4	・これまで通り、活動とのつながりを大切にした行事のあり方を工夫する。「この行事で何を経験させ、どんな姿を期待するのか」をベースに、幼児が達成感を感じられる行事をめざし、保護者にも過程を伝えることで、園と家庭とで幼児の育ちを支えられるようにする。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・市開催の「保幼小連携合同研修会」で、『架け橋期のカリキュラム』作成についての研修会が担当者と管理職を対象に行われた。これをきっかけとして、平田小学校区の保幼小で『架け橋期のカリキュラム』作成の会を2回設け、実態や目指す子ども像について話し合うことができた。	3	3	・今年度着手した『平田小学校区架け橋期のカリキュラム』作成の会を継続し、互いの教職員が幼児・児童の育ちについて理解を深めていきたい。 ・幼児と児童の交流もできると望ましい。 ※子ども達が安心して接続期を過ごせるよう、今後も取り組みを続けてほしい。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・保護者とは、学級懇談会や個人懇談会などで学級全体での育ちや個々の様子について話し合う機会をもてた。PTA活動でも、役員を中心に和気あいあいとした『きらりん祭り』を行ったり、運動会等で協力を得ることができた。 ・地域の行事へ積極的に参加し、新たなつながりもできた。	4	4	・幼児の望ましい育ちのために、その都度必要な連携を図り、今後も互いの信頼関係を図っていく。 ※園の『きらりん祭り』を継続し、保護者のPTA活動への意識を高めてほしい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・園内研修は、互いの保育を見合っ保育力を高める努力をした。平中校区へも呼びかけ、保育公開も行った。 ・園外の研修・研究会にも参加し、自己研鑽に努めた。 ・日教弘論文で二年連続の優秀賞をいただき、研究の取り組みを評価された。	4	4	・これまで積み重ねていた研究を基盤に、園内研修の充実を図ったり、園外への研修に出かけたりして、保育者としての資質向上に努める。 ※先生方の研究に対する熱意を感じる。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・年度当初に定めた園務分掌に従い、各担当者が早めに起案して職員会議にかけ、全職員に文書・口頭で共通理解を図った。途中、職員の体調不良、産休があったが、互いにカバーし合っ進めることができた。	4	4	・今年度から学級減になり職員数が減ったため、一人あたりの分掌事務が増えた。職員会議のもち方や、仕事のスリム化を工夫していく必要がある。 ※補助教諭の人員確保がされていることは安心。正規職員数が減となり、仕事量や残業の負担が心配。園舎管理や事務を遂行するためにも、4月から正規職員の担任配置がなされるべき。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・毎学期、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。マメールを活用した保護者への引き渡し訓練も継続している。一学期に異臭が起りご迷惑をおかけしたが、園児に健康被害がなく何よりだった。これ以降、避難訓練の際にはより一層の見直しを行い、気を引き締めて行っている。	4	4	・年間に実施する避難訓練を、様々な状況を想定した設定で行い、全教職員が幼児の安全を第一とした臨機応変力を身につけられるようにする。 ※新しく設置された防犯カメラとモニターを視察。園の安全管理上、とても良いこと。活用して園児の安全を守ってほしい。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月、安全点検日を定めて複数の目で園舎内外や遊具の点検を行い、必要に応じて市へ連絡して対応している。しかし老朽化のため、その場しのぎのことも多く、施設営繕については引き続き市へ要望をしていく。	2	1	・定期的な安全点検に加え、日々の「ヒヤリハット」を共有したり、必要な改善策を話し合ったりし、教職員の安全意識の向上を図る。 ・施設営繕については、引き続き市へ訴えていく。 ※園門の開閉や止めるためのレバー等の動きが悪く、また門自体がゆがんできている。繰り返しの要望にも改善が見られない。安全上、とても大事な門なので、早急な対応を望む。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する

※・・・運営協議会での意見